

一般社団法人日本環境教育学会

第 36 回年次大会(北海道)

生物多様性の視座からみる 環境教育学の未来

大会内容・プログラム

2025 年 10 月 9 日（木）～10 月 12 日（日）

主催：一般社団法人日本環境教育学会

（第 36 回年次大会実行委員会）

会場：北海道教育大学釧路校 および オンライン

目次

1. 大会実行委員長挨拶	1
2. 開催概要.....	2
3. 大会日程.....	2
4. 会場について.....	5
5. 参加者のみなさまへ	10
6. 口頭発表について.....	12
7. ポスター発表について.....	14
8. 自主課題研究について.....	14
9. 大会参加者向け企画	15
10. 一般公開企画.....	19
11. 発表プログラム	23
12. 自然災害等に伴う年次大会の中止基準・対応等について	35

[日本環境教育学会第36回年次大会実行委員会名簿]

実行委員長	能條 歩	(北海道教育大学岩見沢校)
副実行委員長	野村 卓	(北海道教育大学釧路校)
事務局長	田中 住幸	(札幌大谷大学短期大学部)
委員	朝倉 卓也	(札幌市円山動物園)
委員	大倉 茂	(東京農工大学)
委員	大類 幸子	(黒松内ぶなの森自然学校)
委員	岡 健吾	(北翔大学)
委員	河端 将史	(北海道教育庁)
委員	菊池 稔	(名寄市立大学)
委員	住川 夢	(北海道教育大学釧路校)
委員	菅原 南美	(あすかの森認定こども園)
委員	高木 晴光	(黒松内ぶなの森自然学校)
委員	田中 邦明	(北海道教育大学名誉教授)
委員	田村 和之	(鳴門教育大学大学院)
委員	中本 貴規	(尚絅大学)
委員	橋本 梨花	(北海道教育大学岩見沢校)
委員	宮城 萌実	(北海道環境財団)

1. 大会実行委員長挨拶

第 36 回年次大会（北海道）実行委員長
能條 歩

一般社団法人日本環境教育学会第 36 回年次大会（北海道）にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。北海道のなかでも一段と自然豊かな釧路の地で、環境教育に関する国内の優れた実践・研究の成果を交流する機会をいただきましたことにつきまして、本大会の実行委員会を代表して御礼申し上げますと同時に、皆様にお集まりいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

さて、今回の年次大会は「生物多様性の視座からみる環境教育学の未来」をテーマとし、世界規模で進行する様々な環境問題やそれに絡んだ多くの教育課題の中から、特に喫緊の課題である生物多様性の問題を掘り下げるべく基調講演と 6 つの公開シンポジウムを実施することとしました。一つの年次大会では扱いきれない大きな課題ではありますが、生物多様性教育に関するこれまでとこれからを整理し、社会と経済を成り立たせる前提としての「環境とはなにか」、そして「環境教育（学）」とは何かについて、皆さんと一緒に大いに議論し学び合える場となることを楽しみにしております。

今大会で取り上げた生物多様性に関する教育や研究は、環境教育学会以外の場でも様々な取り組みが行われており、それぞれの視座・視点・論点でまさに多岐にわたる実践や研究が展開されています。しかし、それらを縦断的・横断的に評価したり連携したりするための系統的・体系的な視座は未完であり、「古くて新しい課題」のままとなっています。日本環境教育学会が環境教育学に関する中枢神経としての役割を担うためには、様々な現場とのネットワーク造りにより得られる叢智を結集するための中心的組織としての役割を担えるよう、今大会では、生物多様性の視座から環境教育学会以外の場でご活躍の方も交えた活発な議論と交流を模索しました。

昨年、日本環境教育学会では「人と自然をつなぐ」「研究と実践をつなぐ」「学術と社会をつなぐ」の 3 つの未来ビジョンを策定し、post-SDGs 時代の環境教育学のありようを社会全体に拡張するものとしてイメージしました。しかし、学術団体である以上は創造的活動、すなわち環境教育に関する学術研究の推進が第一義的に重要となります。特に、環境教育学会の関連する領域にある民間団体や学校の数是他の学会のそれに比べると桁違いに多くなっています。その中で、本学会が学術団体としての確固たる地位を築くために、またそれに相応しい知の蓄積による“巨人の肩”づくりのために、今大会が何かしらの意味を持つことを願っております。

今大会の開催に際しましては、公益社団法人国土緑化推進機構令和 7 年度「水と緑の森林ファンド」および釧路市観光コンベンション協会より助成金をいただいたほか、北海道・北海道環境財団・北海道ユネスコ連絡協議会・北海道新聞釧路支社・釧路新聞社・NHK 釧路放送局よりご後援をいただいております。最後になりますが、多くの皆様の環境教育学に対するご理解とご支援により今大会が開催できましたことにつきまして、心より厚く御礼申し上げます。

2. 開催概要

- 期 間：2025 年 10 月 9 日（木）～10 月 12 日（日）

※一部のエクスカーションは、10 月 13 日（月）に開催

- 会 場：北海道教育大学釧路校・オンライン（Zoom）

- 主 催：一般社団法人日本環境教育学会（第 36 回年次大会実行委員会）

- 後 援：北海道・北海道教育委員会・釧路市・釧路市教育委員会・北海道地方 ESD 活動支援センター・公益財団法人北海道環境財団・北海道ユネスコ連絡協議会・北海道新聞釧路支社・釧路新聞社・NHK 釧路放送局

- 助 成：公益社団法人国土緑化推進機構令和 7 年度「水と緑の森林ファンド」
釧路市観光コンベンション協会

- 一般社団法人日本環境教育学会第 36 回年次大会ウェブサイト

https://www.old.jsfee.jp/members/meeting/113-annual-meeting/607-jsfee36_hokkaido2025

3. 大会日程

10月9日 (木)	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	
	口開発表 (オンライン)			口開発表 (オンライン)										
	エクスカーション1 秋の釧路村でタンチョウ三昧 (釧路)													
	エクスカーション2 洞窟探検有珠山(NE300世界ジオパークのテーマ「火山との共生」を通して① (洞窟)													
エクスカーション3 秋の釧路山周遊トレッキング (苫小牧)														
10月10日 (金)	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	
	エクスカーション4 もりんの森見学 (釧路)			エクスカーション7 釧路町の幼小中高一貫教育の知床学 (釧路)			受付	学生・若手の集い (オンライン併用)		受付	金賞贈賞会 (オンライン併用)		論文の書き方セミナー (オンライン併用)	
	エクスカーション5 然別湖周辺の希少生物の現地観察ツアー (釧路)													
	エクスカーション6 釧路村のファームイン・トーチでデジタルデトックス体験ツアー (釧路)													
	会場／北海道教育大学釧路校													
10月11日 (土)	9:00	8:15～11:45		12:00		13:00～14:30		14:45～15:15		16:30～18:00	18:00	18:30～20:30	21:00	
	受付	口開発表						公開シンポジウム1		公開シンポジウム4				
		ポスター発表 (研究・実践)		昼食・休憩	受付	基調講演	休憩	公開シンポジウム2	休憩	公開シンポジウム5	休憩	懇親会		
								公開シンポジウム3		公開シンポジウム6				
	環境メッセ													
会場／北海道教育大学釧路校 (受付: 釧路校図書館入り口)														
10月12日 (日)	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	
	口開発表 環境賞発表			昼食・休憩	研究会		休憩	自主課題研究会						
	ポスター発表 (研究・実践)													
	英語部会 (オンライン併用)	国際交流部会 (オンライン併用)												
	ユネスコスクール等の学校教育実践報告 (ポスター発表)			エクスカーション8 ユネスコスクール研修会										
	環境メッセ													
	会場／北海道教育大学釧路校 (受付: 釧路校図書館入り口)													
10月13日 (月)	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	
	エクスカーション10 わたしたちの住む場所へまちを歩き、まちを感じる: 釧路で響ける環境教育～ (釧路)													
	エクスカーション9 釧路湖源の開発と外来種問題を考える (釧路)													
	エクスカーション2 洞窟探検有珠山(NE300世界ジオパークのテーマ「火山との共生」を通して② (洞窟)													
	エクスカーション11 K10設立30周年記念事業 温厚のしくみを伝える (釧路)													
エクスカーション12 釧路の施設見学と北海道アレキサンダープロジェクト(LD体験) (釧路)														
エクスカーション13 土地が私たちに教えるー見えない土地が地球の気候危機への影響となり得る理由 (釧路内)														

※教室番号入りプログラム (スプレッドシート) <https://x.gd/a31Vx>

※学生・若手の集い、基調講演、公開シンポジウム、環境教育メッセは、大会参加費をお支払いいただいた方以外の方も参加可能です。

※10 月 11 日 (土) の基調講演と公開シンポジウムは、対面のみでの開催となります (一部の資料で「オンライン併用」と記載しておりました。お詫びして、訂正いたします)。

<大会詳細>

10月9日(木)@オンライン (Zoom)

口頭発表 = 9:00~12:00/13:00~17:00

※ZoomのID・パスコードは、10月8日(水)を目処に、参加者の皆様に配信いたします。

10月10日(金)@北海道教育大学釧路校303教室・オンライン (Zoom)

学生・若手の集い = 15:00~17:00

会員懇談会 = 17:30~18:30

論文の書き方セミナー = 18:45~20:30

※「学生・若手の集い」「会員懇談会」ZoomのミーティングID・パスコード

ミーティングID: 831 0392 8234、パスコード: 758898

※「論文の書き方セミナー」ZoomのID・パスコード

ミーティングID: 922 0198 3721、パスコード: 665407

10月11日(土)@北海道教育大学釧路校

受付開始時間 8:15 (図書館1階入り口)

口頭発表 = 9:15~12:10 (201教室・202教室・301教室・302教室・304教室)

ポスター発表 = 9:15~12:10 (小ホール)

環境教育メッセ = 9:15~18:00 (教室棟1階ホール・へき地教育研究センター)

基調講演 = 13:00~14:30 (小ホール・303教室)

基調講演テーマ:「生物多様性の視座からみる環境教育学の未来」

講師:大原 雅(北海道大学名誉教授、公益社団法人北海道環境財団理事長)

公開シンポジウム第1部 = 14:45~16:15

公開シンポジウム1「生物多様性保全と再生可能エネルギー問題」(303教室)

公開シンポジウム2「生物多様性と自然保育」(304教室)

公開シンポジウム3「生物多様性と動物園・博物館教育」(小ホール)

公開シンポジウム第2部 = 16:30~18:00

公開シンポジウム4「生物多様性と湿地教育・学校教育」(303教室)

公開シンポジウム5「生物多様性と外来種問題」(小ホール)

公開シンポジウム6「生物多様性保全と経済・産業活動」(304教室)

懇親会 = 18:30~20:30 (生協食堂)

10月12日(日)@北海道教育大学釧路校(英語報告部会・国際交流は一部オンライン)

受付開始時間 8:15 (図書館1階入り口)

口頭発表 = 9:00~12:00 (201教室・202教室・301教室・302教室・304教室)

奨励賞審査 = 9:00~12:00 (305教室)

英語報告部会 = 9:00~11:00 (図書館グループ学習室1)

ポスター発表 = 9:00~13:00 (コアタイム12:00~13:00) (小ホール)

環境教育メッセ = 9:00~16:15 (教室棟1階ホール・へき地教育研究センター)

国際交流会 = 11:00~13:00 (図書館グループ学習室1)

研究会 = 13:00~14:30 (201教室・202教室・301教室)

自主課題研究 = ~~15:30~17:30~~14:45~16:15 (201 教室・202 教室・301 教室・304 教室)

※英語報告部会・国際交流で使用する Zoom の ID・パスコードは、10 月 8 日（水）を目処に、参加者の皆様に配信いたします。

4. 会場について

<北海道教育大学釧路校へのアクセス>

所在地：〒085-0826 北海道釧路市城山1丁目15-55

JR ご利用の場合

JR「釧路駅」から、くしろバス（3 武佐線、32 別保線）で10分「城山十字路」下車、徒歩4分

都市間バスご利用の場合

札幌、旭川、帯広、北見、根室からの運行があります。乗車・降車の場所は「JR 釧路駅前」もしくは「フィッシャーマンズワーフ MOO 都市間バスターミナル」になります。

釧路空港ご利用の場合

到着便への釧路市内行き連絡バスは、飛行機の到着後15～20分ほどで釧路空港を出発します。

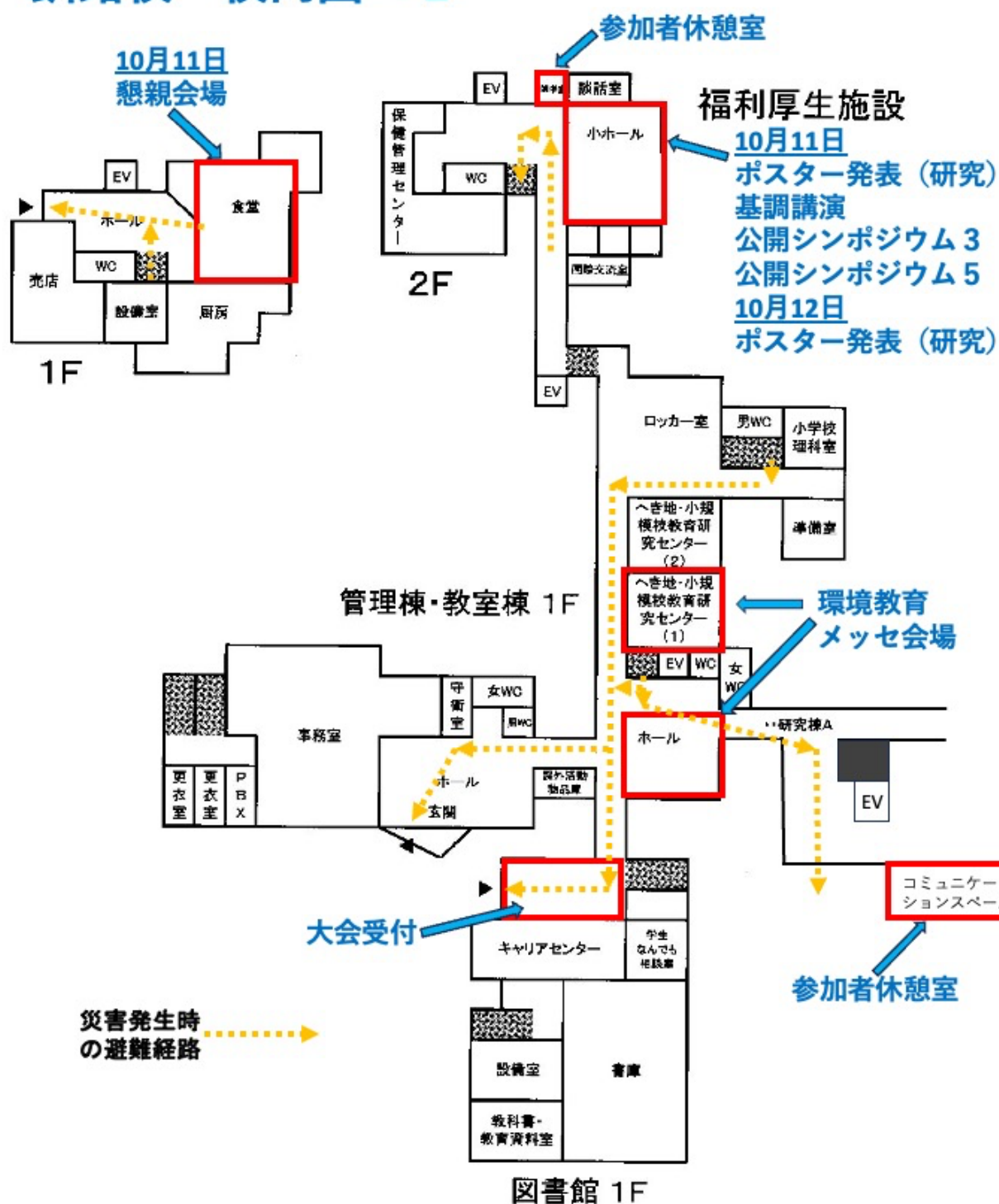
主な所要時間はJR 釧路駅前まで約45分、フィッシャーマンズワーフ MOO まで約55分、釧路市役所前まで約55分です。



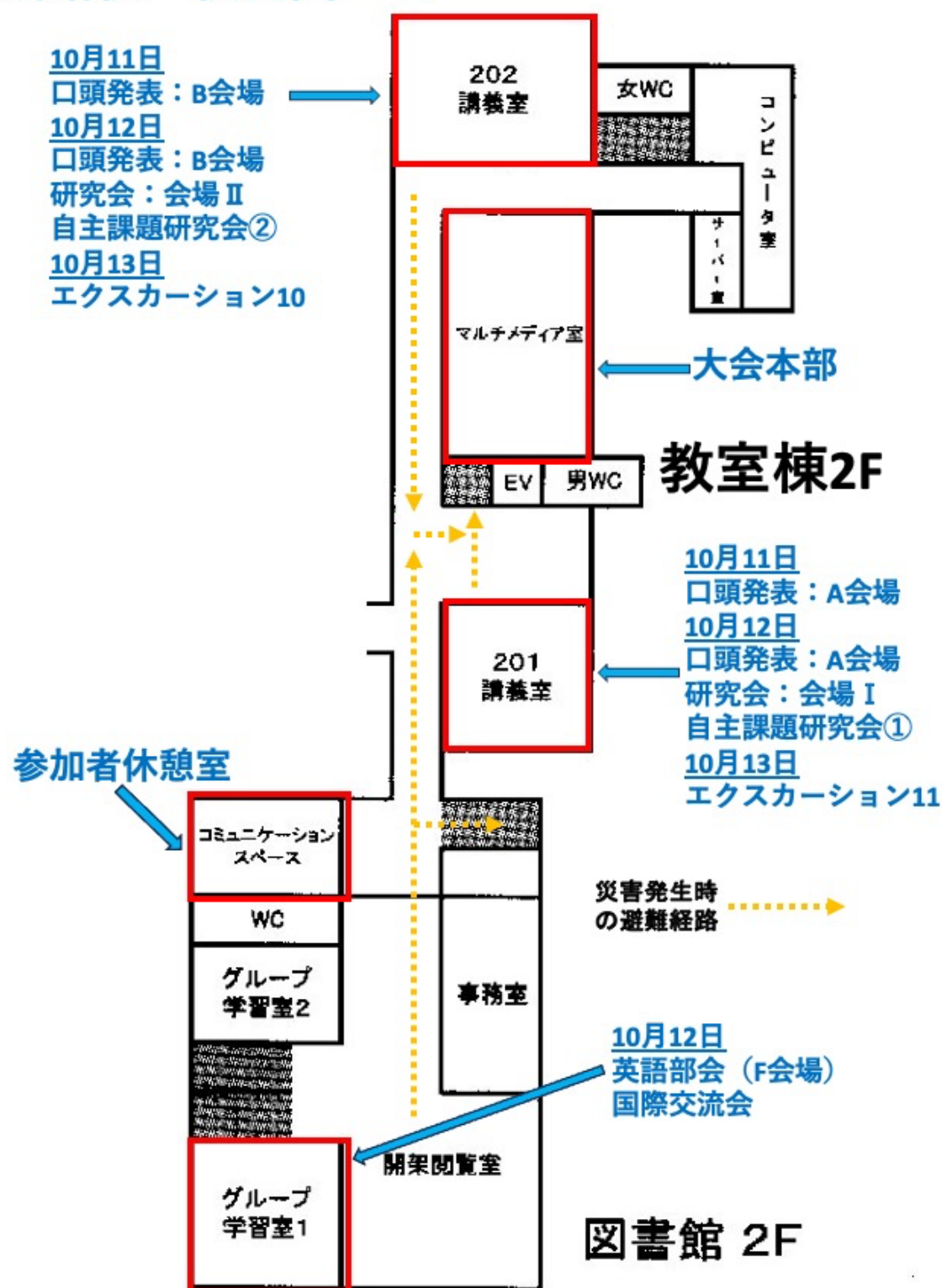
出典) 北海道教育大学釧路校アクセスマップから転載

(<https://www.hokkyodai.ac.jp/kus/access/index.html>)

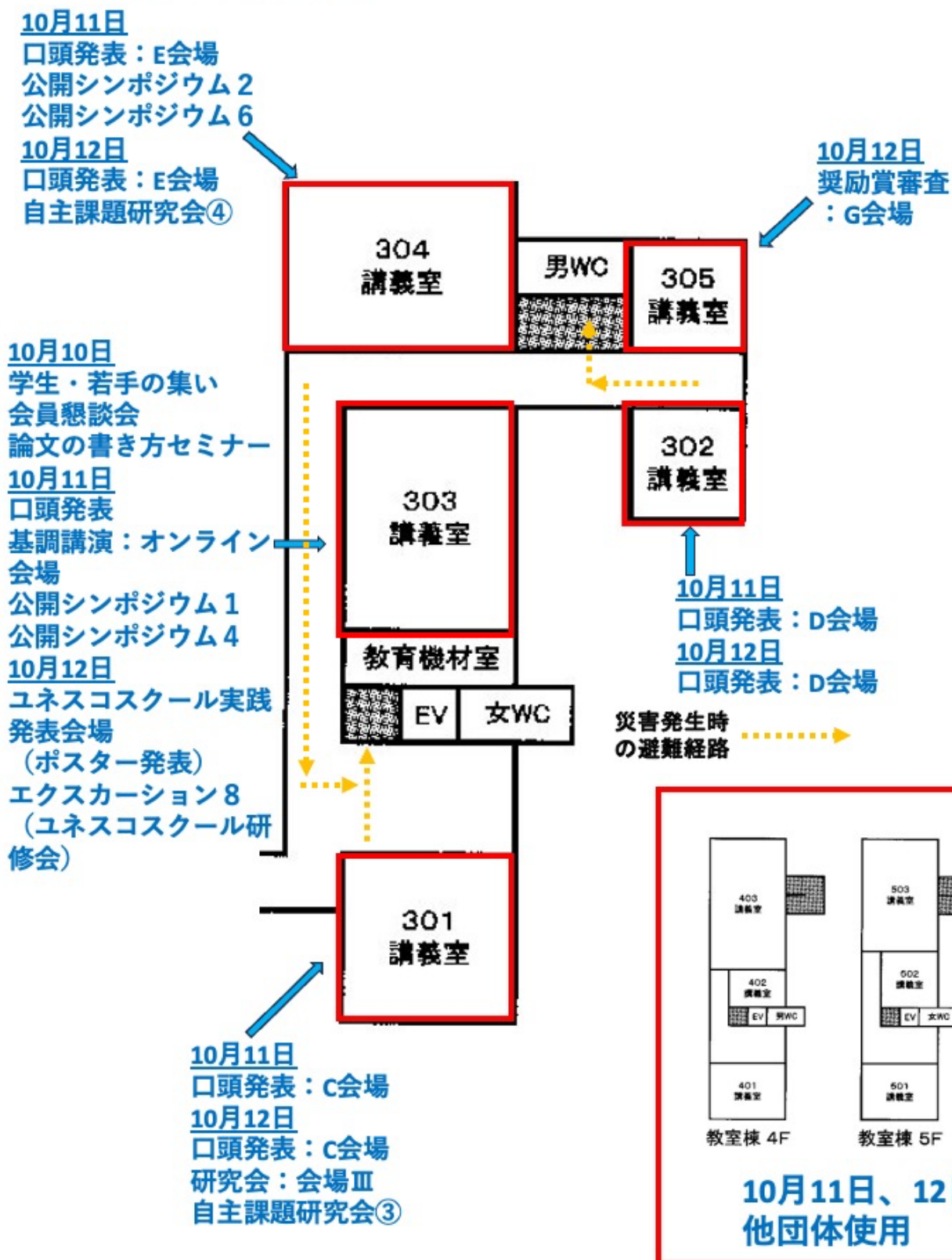
釧路校 校内図-1



釧路校 校内図-2



釧路校 校内図－3



5. 参加者のみなさまへ

対面参加

●全般について

- ・大会受付について、10月10日（木）は303教室入口、10月11日（土）～10月12日（日）は図書館1階入り口に設置します。参加者は必ずここで受付をしてください。
- ・10月11日（土）～10月12日（日）の大会受付にて参加表（名札）をお渡しいたします。会場内では必ず身に付けてください。
- ・大会開催期間中は、会場以外の建物および教室に出入りすることはできません。
- ・会場内は全面禁煙です。喫煙スペースはございませんので、予めご了承ください。

●会場での Wi-Fi 利用について

- ・会場の北海道教育大学釧路校は「eduroam」に参加しております。「eduroam」を利用して、会場の Wi-Fi に接続していただくことができます。ただし、回線速度については保証できません。会場では、「eduroam」以外の wi-fi 環境の提供はありません。

※「eduroam」については、次の WEB サイトをご覧ください。<https://www.eduroam.jp/about>

●ご宿泊について

- ・宿泊先は各自でお手配ください。実行委員会では予約や斡旋等はいたしません。
- ・「4. 会場について」を参考に宿泊場所を確保してください。

●お食事について

- ・大会期間中、北海道教育大学釧路校の食堂は営業しません
- ・食事の際は使用教室や参加者休憩室をご利用ください。
- ・ゴミは各自でお持ち帰りください。

●その他

- ・クロークはございません。貴重品等は各自が携帯してください。

オンライン参加 ※10月9日（木）口頭発表、10月10日（金）学生・若手の集い・会員懇談会・論文の書き方セミナーの希望者、10月12日（日）英語報告部会の希望者

- ・口頭発表（オンライン）ではオンライン会議システム Zoom を使用します。ご自身のパソコン、タブレット、スマートフォンからインターネットに接続いただきご参加ください。
- ・パソコンの操作、インターネット接続、映像・音声等については事前にご自身でご確認ください。こちら（<https://zoom.us/test>）からログインテストができます。
- ・オンライン参加にかかる通信料等、別途発生する費用については各自でご負担ください。
- ・ミーティング ID とパスコードは大会前日頃に参加申込者へ直接送付されます。
- ・ミーティングに参加する際は、Zoom 上で表示される名前を「氏名（ご所属）」と設定してください。
- ・オンライン参加を希望される方は、実行委員会が定める発表方法、及び聴講方法に従ってください。オンライン大会での発表に際してトラブル等が生じて、日本環境教育学会はその責任を負いません。
- ・発表中の映像・音声・テキストログ等を発表者に無断で録画・録音・スクリーンショットしないでください。また、SNS への投稿等による第三者へ開示は禁止とします。
- ・チャット機能の使用および発表中の質問については、各セッションの座長の指示に従ってください。
- ・Zoom の接続数に限りがあるため、複数のデバイスを使つての同時接続はしないでください。

- ・円滑な進行を妨げる行為があった場合、座長、サポートスタッフの判断で、参加者のマイクやカメラ、画面共有などを強制的に off にする場合があります。ご了承ください。

6. 口頭発表について

対面発表

(事前準備)

- ・発表は、発表者がPC・タブレットを持ち込んでください。会場でのPC貸出の準備はございません。プロジェクターとの接続は、HDMI端子を使用しますので、HDMI端子を使用できる環境をご用意ください。
- ・PCの操作は発表者の責任で行ってください。
- ・念のためPowerPoint等のスライドデータは、USBメモリに入れて当日ご持参ください。ご持参するUSBメモリは、ご自身でウイルスチェックをお願いします。
- ・発表者はセッションの入替時間に接続確認を行ってください。

(発表者)

- ・発表者は1つ前の発表になりましたら会場の前の方の席に待機してしてください。
- ・発表者ははじめに発表タイトルと発表者名を述べてください。
- ・口頭発表のスライドなどの撮影可否については、発表者がご自身で、発表前にその旨お伝えください。
- ・発表時間は15分（発表12分、質疑3分）で進行します。
- ・発表中の合図は次の通りです。

第1鈴 10分

第2鈴 12分（発表時間終了です。直ちに発表を終了してください。）

第3鈴 15分（質疑終了です。次の発表者と交代してください）

- ・各セッションでは、3名（一部2名）が連続して発表した後に「総合討論」を10分程度予定しております。総合討論では、セッション内の発表者全員に共通する質問や発表者同士に議論を求める場合があります（発表者はそれぞれのセッションの総合討論が終了するまで、会場に待機してください）。

(座長のみなさま)

- ・座長はセッション全体を担当していただきます。発表から総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。
- ・進行に際しては、くれぐれも時間厳守をお願いします。
- ・質問者には、はじめに氏名と所属を述べさせてください。
- ・討論が特定の発表者・発言者に偏らないよう、配慮してください。
- ・各セッションでは、3名（一部2名）が連続して発表した後に「総合討論」を10分程度予定しております。「総合討論」は、単なる質問時間の延長とするのではなく、なるべく「セッション内の発表者全員に共通する質問」や「発表者同士の議論」が行われるようにご配慮ください。

オンライン発表 ※10月9日（木）口頭発表、10月12日（日）英語報告部会の希望者

（事前準備）

- ・参加申込者に送付される Zoom ミーティング ID とパスコードを確認し、入力してください。
- ・ミーティングに参加する際は、Zoom 上で表示される名前を「【発表者】氏名（ご所属）」の順に入力してください。例：【発表者】釧根十勝（オホーツク大学）
- ・接続速度が十分確保できる通信環境での接続を心がけてください。
- ・ヘッドセットあるいはマイク付きイヤホンをお持ちの場合は、それらの使用をお勧めします。
- ・こちら（<https://zoom.us/test>）から事前に音声等の確認をお願いいたします。

（発表者）

- ・口頭発表は Zoom を用い、発表していただきます。
- ・発表者は自身のセッション開始時間の 5 分前までには必ずミーティングに参加してください。
- ・発表時間は 15 分（発表 12 分、質疑 3 分）で進行します。
- ・発表中の合図は以下の通りです。

第 1 鈴 10 分

第 2 鈴 12 分（発表時間終了です。直ちに発表を終了してください。）

第 3 鈴 15 分（質疑終了です。カメラとマイクをオフにしてください。）

- ・発表者は、それぞれのセッションの総合討論が終了するまでミーティングルームに待機してください。

（参加者）

- ・ミーティングに参加する際は、Zoom 上で表示される名前を「氏名（所属）」の順に入力してください。
- ・発表を聴く際はカメラとマイクはオフにしてください。
- ・チャット機能の利用については座長の指示に従ってください。
- ・質疑応答を行う時は、リアクションボタン（手を挙げる）をクリックしてください。座長より指名された後、カメラとマイクをオンにして質問してください。
- ・円滑な運営にご協力ください。

（座長のみなさま）

- ・発表から総合討論まで、責任を持って進行をお願いします。
- ・セッションを開始する前に、チャット機能の利用の可否について明言してください。
- ・進行に際しては、くれぐれも時間厳守をお願いします。
- ・質問者には、はじめに氏名と所属を述べさせてください。
- ・討論が特定の発表者・発言者に偏らないよう、配慮してください。

7. ポスター発表について

(事前準備)

- ・発表者は10月11日(土)の9:15までに所定の位置にポスターを掲示してください。
- ・ポスターの展示スペースは、1件につきA0サイズ1枚です。
(縦:1189mm×横:841mm、模造紙サイズ<1090mm×790mm>も可)
- ・ポスター貼り付け用の画鋏を大会実行委員会で準備します。ご自身で用意されたテープなどは使わないようにしてください。
- ・発表用ポスターの撮影を禁止する場合は、発表者ご自身でその旨を掲示してください。

(発表者)

- ・発表者は質疑応答のため、10月12日(日)のコアタイム(12:00~13:00)に、ポスター前で待機し、質疑応答を行ってください。
- ・コアタイム以外は自由閲覧としますので、発表者がその場にいる必要はありません。

(後片付け)

- ・10月12日(日)の13:00以降、各自ポスターを取り外して撤収を完了してください。
- ・14:30を過ぎて掲示されているポスターは、実行委員会で処分いたします。保管はいたしませんので、ご了承ください。

8. 自主課題研究について

- ・対面の会場設営および進行等の運営は全て企画者側で行い、終了後は会場を元の状態に戻してください。
- ・代表者及びメンバーが責任をもって進行してください。
- ・終了時間は厳守をお願いします。

9. 大会参加者向け企画

●エクスカーショ

- ・参加には事前申込が必要です。詳細は下記のエクスカーショ一覧にてご確認ください。

<https://x.gd/uPrhw>

- ・エクスカーショへの申込は下記のフォームから行ってください。

<https://x.gd/19pJW>

- ・最新の申込状況については、下記のスプレッドシート（第36回年次大会エクスカーショ申込状況）をご確認ください。

<https://x.gd/vdGV0>

■エクスカーショテーマ一覧

1. 秋の鶴居村でタンチョウ三昧
2. 洞爺湖有珠山 UNESCO 世界ジオパークのテーマ「火山との共生」を通して、「地球に住むということ」を共に考えるツアー
3. 秋の樽前山周遊トレッキング
4. もりんどの森見学
5. 然別湖周辺の希少生物の現地観察ツアー
6. 鶴居村のファームイン・トーチでデジタルデトックス体験ツアー
～ 北海道の大自然・秋の実り・渡り鳥・道産子馬・暖炉・牧場・のんびり ～
7. 羅臼町の幼小中高一貫教育の知床学
8. ユネスコスクール研修会
9. 釧路湿原の開発と外来種問題を巡る
10. わたしたちの住む場所
～まちを歩き、まちを感じる：釧路で繋がる環境教育～
11. K IWC設立 30 周年記念事業 湿原のしくみを伝える
12. 羅臼の施設見学と北海道アレンジ project WILD 体験
13. 土壌が私たちを救う ― 足元の地面が地球の気候危機への解答となり得る理由/"The Soil Will Save Us--Why the Ground Beneath Our Feet Could Be the Answer to the Global Climate Crisis"
14. ガイドツアー：北海道の動物とアイヌ文化&タンチョウレスキューガイド@釧路市動物園

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
10月9日 (木)	口開発表 (オンライン)			口開発表 (オンライン)									
				エクスカーション1 秋の鶴居村でタンチョウ三昧 (鶴居)									
				エクスカーション2 洞爺湖有珠山UNESCO世界ジオパークのテーマ「火山との共生」を通して① (洞爺湖)									
				エクスカーション3 秋の樽前山周遊トレッキング (苫小牧)									
10月10日 (金)	エクスカーション4 もりんどの森見学 (釧路)			エクスカーション7 羅臼町の幼小中高一貫教育の知床学 (羅臼)			受付	学生・若手の集い (オンライン併用)		受付	会員懇談会 (オンライン併用)	論文の書き方セミナー (オンライン併用)	
				エクスカーション5 然別湖周辺の希少生物の現地観察ツアー (釧路)									
				エクスカーション6 鶴居村のファームイン・トーチでデジタルデトックス体験ツアー (鶴居)									
10月13日 (月)	エクスカーション10 わたしたちの住む場所～まちを歩き、まちを感じる：釧路で繋がる環境教育～ (釧路)												
	エクスカーション9 釧路湿原の開発と外来種問題を巡る (釧路)												
				エクスカーション2 洞爺湖有珠山UNESCO世界ジオパークのテーマ「火山との共生」を通して② (洞爺湖)									
				エクスカーション11 K IWC設立30周年記念事業 湿原のしくみを伝える (釧路)									
				エクスカーション12 羅臼の施設見学と北海道アレンジproject WILD体験 (羅臼)									
				エクスカーション13 土壌が私たちを救う―足元の地面が地球の気候危機への解答となり得る理由 (釧路内)									

●学生・若手の集い

日時：10月10日（金）15:00～17:00

会場：303 教室・オンライン

内容：

学生および若手会員を対象とした交流企画「学生・若手の集い」を開催いたします。本企画は、環境教育や自然環境に関心を持つ方が、立場や経験を問わず集まり、情報交換や悩み相談を行う場として企画しています。環境教育の専門的知識がなくてもご参加いただけます。対面、オンライン併用で行います。

1. 自己紹介（研究分野や関心テーマ、関心のある社会課題など）

2. グループディスカッション（トークテーマ例）

「生物多様性や環境保全に関する意識や取組」「環境への態度やその変容」

「教育実践における子どもへのアプローチ」「大人への理解促進のための工夫」

対象：

- ・環境教育や自然環境に関心をお持ちの学生・若手の方
- ・教育学部・教員養成課程所属の方
- ・過去の被教育体験を共有したい方

経験や研究分野を問いません。ぜひお気軽にご参加ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

申し込み：「学生・若手の集い」に参加を希望される方は、下記より申し込みをお願いいたします。

<https://x.gd/mJH0E>

●会員懇談会

日時：10月10日（金）17:30～18:30

会場：303 教室・オンライン

●論文の書き方セミナー

日時：10月10日（金）18:45～20:30

会場：303 教室・オンライン

話題提供：

1. 投稿論文および回答書の「アクセプトに向かう」ポイントとは？

中村 和彦（東京大学大学院 新領域創成科学研究科、第2期編集委員長）

2. 環境教育の実践者が論文を書くには？

渡邊 司（SAPIX 環境教育センター、第3期副編集委員長）

案内チラシ：<https://x.gd/4IbML>

●懇親会

日時：10月11日（土）18:30～20:30

会場：生協食堂

当日参加申込可能です。受付でお申し込みください。

一般会員 5,000 円

一般非会員 5,000 円

学生会員 2,000 円

学生非会員 2,000 円

★差し入れ大歓迎！★各地の名酒や名産品など、差し入れ大歓迎です。懇親会会場にお持ちください。

●英語報告部会

日時：10月12日（日）9:00～11:00

会場：図書館グループ学習室1

本大会では10月12日（日）の口頭発表内（9:00～11:00）に、すべてを英語によって進行する「英語報告部会」を設定します。発表形式は口頭発表（対面・オンライン）・質疑応答です。

英語で発表される参加者だけではなく、会員の皆様にも積極的に英語報告部会にご参加ください。詳しくは研究発表プログラム(p.27)をご覧ください。オンラインの参加の方は、参加者に送られました Zoom の ID とパスコードをご確認ください。

●国際交流会

<第一部>

日時：10月12日（日）11:00～12:00

会場：図書館グループ学習室1

テーマ：日本とインドネシアにおける生物多様性に関して

骨子：アジアジャーナルへの投稿者2名による論文の発表と意見交換

対象：国際交流・国際共同研究に関心のある会員（研究者でも実践者でも）

言語：英語

<第二部>

日時：10月12日（日）12:00～13:00

会場：図書館グループ学習室1

テーマ：本学会の国際交流委員会の活動について

骨子：国際交流委員会の各委員による活動の紹介

対象：国際交流・国際共同研究に関心のある会員（研究者でも実践者でも）

事例・これまでの活動紹介を通じた国際共同研究、交流プロジェクトについて、国際交流委員との交流

言語：日本語と英語

●研究会（研究委員会主催企画）

日時：10月12日（日）13:00～14:15

会場：201教室・202教室・301教室

内容：

2025年度は新たに5つの研究分科会が発足し、研究会は11研究会・分科会を数えるに至りました。従来は一つの会場で発表・研究交流を行っていましたが、会の数も増えたことから本年度では下記のように3つの会場で並行して開催することになりました。

研究会の活動に関心のある方は、ぜひご参加をお願いいたします。

プログラム：

時間	会場Ⅰ（201教室）	会場Ⅱ（202教室）	会場Ⅲ（301教室）
13:00～13:30	A-2 環境教育活動推進研究会	B-1 環境教育探求誌研究会	A-1 学校環境教育研究会 A-3 環境教育学研究法研究会
13:30～13:45	B-2 持続可能なエネルギー環境教育の課題と可能性	B-3 公害教育研究会	C-2 生物多様性普及啓発のための学会間連携
13:45～14:00	C-1 環境学習施設ネットワーク	C-4 自然保育と環境教育	C-3 社会変革のための環境教育研究会
14:00～14:15		C-5 幼小接続期の森林ESD	

10. 一般公開企画

●基調講演「生物多様性の視座からみる環境教育学の未来」

日時：10月11日（土）13:00～14:30

会場：小ホール・303教室

講師：大原 雅氏（公益財団法人北海道環境財団 理事長）

概要：

現在、地球上には約25万種の植物が生育しています。それぞれの種(species)は、私たち人間(Homo sapiens)と同じように、子孫を作り、世代が受け継がれるシステム(生活史)を維持しています。今回の講演では、北海道の春を代表する多年生植物オオバナノエンレイソウの生活史を題材とした環境教育をご紹介します。

オオバナノエンレイソウは、安定した落葉広葉樹林の林床に生育し、種子から開花までには10年以上の期間を必要とします。そして、開花個体が種子を作るには花粉を運ぶ昆虫の訪花を必要とし、さらに、作られた種子はアリによって運ばれ移動します。つまり、オオバナノエンレイソウの生活史は、生育環境を含め多様な生物との共生の中で維持されているのです。この一連の生活史研究を行ったのが、北海道十勝地方広尾町シーサードパークのオオバナノエンレイソウの大群落です。研究の遂行には、広尾町教育委員会はもちろんのこと、多くの町民の方々のご協力をいただきました。

そこで、これまでの研究成果を論文として公表するだけでなく、少しでも広尾町の皆様に還元(恩返し)できればと思い、教育委員会に相談して「オオバナノエンレイソウの生活史」をテーマに小中学生を対象とした環境教育プログラムを作成することにしました。プログラムは大きく2つの柱からなります。1つは、『教材パンフレット』と『指導書』の作成。もう1つは、『野外観察会』です。教材パンフレット「オオバナノエンレイソウが教えてくれる自然の大切さ」は、オオバナノエンレイソウの生育環境、生長過程、個体群構造、繁殖様式などの生活史を紹介するものです。一方、『指導書』は教員がこのパンフレットを使って、自主的に授業を展開できるように、「授業編」と「研究編」の構成としました。

『野外観察会』は、これまで調査・研究を行ってきたシーサイドパークで実施しました。学校で教材パンフレットを使った学習(座学)の後、生徒たちに実際の現場で、種子から開花に至るまでの生活史過程を見て、触れて、知ってもらい、かつ、その生活史が維持されるためには生育環境である森の保全が重要性であることを学んでもらいました。

本事業は2006年からスタートしました。大学の研究のみに基盤をおいた環境教育プログラムは、ともすれば実際の教育現場と乖離したものになる危険性があります。幸いにも、本事業は教育委員会ならびに広尾町の小中学校の全面的協力を得ながら、作り上げることができました。ただし、全てが首尾よく行ったわけではありません。地方における小学校の統廃合、役所職員や学校教員の異動、新型コロナウイルス、私の定年退職など、これまで、そして今後の課題も含めて、お話しさせていただきます。

〈基調講演資料〉

オオバナノエンレイソウが教えてくれる自然の大切さ

<https://x.gd/FBYAE>

オオバナノエンレイソウが教えてくれる自然の大切さ 指導書(研究編・授業編)

<https://x.gd/64qD2>

●公開シンポジウム

【第1部】

日時：10月11日（土）14時45分～16時15分

公開シンポジウム1「生物多様性保全と再生可能エネルギー問題」

会場：303教室

登壇者：渡辺 有希子（猛禽類医学研究所）、中村 亮太（釧路町別保小学校）、佐藤 健翔（厚岸町立真龍中学校）、照井 滋晴（NPO 法人環境把握推進ネットワーク－PEG）

コーディネーター：玉井 慎也（北海道教育大学釧路校）

世話人：○野村 卓（北海道教育大学釧路校）、照井 滋晴（NPO 法人環境把握推進ネットワーク－PEG）、玉井 慎也（北海道教育大学釧路校）

概要：生物多様性を保全しながら再生可能エネルギーをどのように活用していくのか。一見対立しないように見えるが、多くの課題を有している。太陽光発電においては、パネル設置が北海道東部の湿地や農地に於いて急速に拡大しており、そこに生息する生物に影響を与えている。また、北海道西部や北部における風力発電においては、海岸線に沿って設置された風力のプロペラによって多くの鳥類が命を落としている。環境政策やエネルギー政策の一環として設置が進む再生可能エネルギーであるが、地域の生態系や生物多様性保全を軽視した設置について、今まさに検討する余地がある。これらの実情をうけ、学校教育において、どのような学習へと展開させているか。北海道東部の小学校や中学校の教育実践事例を通して、意見交換を進めたい。

公開シンポジウム2「生物多様性と自然保育」

会場：304教室

登壇者：中村 逸人（認定こども園みはらフレンドようちえん）、島田 恵美（自然ウォッチングセンター）

コーディネーター：田中 住幸（札幌大谷大学短期大学部）

世話人：○田中 住幸（札幌大谷大学短期大学部）、大類 幸子（黒松内ぶなの森自然学校）

概要：保育・幼児教育においても持続可能性の視座から教育活動を行うことが求められている。また、保育・幼児教育に自然体験や生活体験を積極的に取り入れようとする自然保育も活発になってきている。幼児の発達における自然の果たす役割についての否定的見解はほとんど見られないが、自然保育が環境教育や生物多様性教育としての位置付けをもてるとしたらどのような理論や活動に基づくのかといった議論は深まりを見せていない。今回のシンポジウムでは、釧路市や札幌市で取り組まれている事例などをもとに、環境教育や生物多様性教育としての自然保育について議論する。

公開シンポジウム3「生物多様性と動物園・博物館教育」

会場：小ホール

登壇者：長谷川 理（NPO 法人 EnVision 環境保全事務所）、久保田 学（環境省北海道環境パートナーシップオフィス）、飯間 裕子（釧路市動物園）

コーディネーター：奥山 英登（国立アイヌ民族博物館）

世話人：○朝倉 卓也（札幌市円山動物園）、奥山 英登（国立アイヌ民族博物館）、久保田 学（環境省北海道環境パートナーシップオフィス）

概要：生物多様性の危機が深刻化するなかで「ネイチャーポジティブ（自然再興）」が世界共通の目標とされ、そこに果たす博物館や動物園などの拠点施設の役割への関心・期待が高まってきている。このシンポジウムでは、ネイチャーポジティブに関する最近の動向とともに、道内の博物館の取組、動物園での環境教育の開発・連携構築、地域に根ざした保全教育の実践例などを紹介し、今後の施設間連携や取組の方向性を議論する。

【第2部】

日時：10月11日（土）16時30分～18時00分

公開シンポジウム4「生物多様性と湿地教育・学校教育」

会場：303教室

登壇者：新庄 久志（釧路国際ウェットランドセンター）、原田 修（鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ）、江渡 明香（釧路市立清明小学校）

コーディネーター：河端 将史（北海道教育庁根室教育局）

世話人：○河端 将史（北海道教育庁根室教育局）、岡 健吾（北翔大学）、堀 圭吾（釧路国際ウェットランドセンター）

概要：湿地は生物多様性のホットスポットの一つとして知られ、日本の湿地の8割以上が北海道にあるとされている。しかし、湿地は明治期から減少の一途を辿り、逆にユニークな生態系ゆえの「絶滅危惧種のホットスポット化」にもつながっている。ヒトが自然に与えるインパクトにより湿地減少の不可逆性や、生物の適応と進化、植生遷移、生態系サービスなど、教育素材の宝庫である湿地をどのように環境教育の場としていくか、エコツーリズムの観点からどのようなワイズユースが行われるべきか、学ばれるべきことが十分扱われているかなどについて議論する。

公開シンポジウム5「生物多様性と外来種問題」

会場：小ホール

登壇者：照井 滋晴（NPO 法人環境把握推進ネットワーク - PEG）、田中 一典（ザリガニと身近な水辺を考える会）、石原 徹（遠軽町ウチダザリガニ防除ボランティアグループ「ジオザリクラブ」）

コーディネーター：松岡 和樹（地域環境計画 北海道支社）

世話人：○中本 貴規（尚絅大学）、宮城 萌実（北海道環境財団）、松岡 和樹（地域環境計画 北海道支社）

概要：本シンポジウムでは、「外来種とは何か？」という基本的な問いを出発点に、近年全国で生息域を広げているウチダザリガニに焦点を当てる。北海道ではその分布拡大により在来種への影響が顕在化し、現場ではさまざまな対応が求められている。登壇者には、ウチダザリガニの駆除・調査・研究に携わる専門家と、ニホンザリガニの保全活動を行う専門家を迎え、それぞれの立場からお話しいただく。ウチダザリガニは侵略的外来種であり、ニホンザリガニの個体数減少も懸念されている。今回は、ウチダザリガニの生態や被害の実態、現地での対策の現状と課題に加え、ニホンザリ

ガニ保全の取り組みについても報告いただき、生態系保全と地域に根ざした対応の可能性を探る。

公開シンポジウム 6「生物多様性と経済・産業活動」

会場：304 教室

登壇者：正木 儀憲（大同特殊鋼株式会社）、政田 道明（政田農園）、元場 一彦（日本農薬株式会社）、
田中 邦明（北海道教育大学）

コーディネーター：渡邊 司（SAPIX 環境教育センター）

世話人：○田中 邦明（北海道教育大学）、渡邊 司（SAPIX 環境教育センター）

概要：第一次産業は生物多様性への配慮なくして成立し得ない産業であるが、農業は単一生物種のみを大量に生息させることでもあるため、農薬などの化学物質によるもの以外にも、大規模農業の隆盛が生態系を攪乱する可能性がある。また、企業の CSR などによる生態系保全も随所で行われるようになってきているが、“役に立つ生態系サービス”を提供する自然を選択的に保全する活動が今後逆に生態系にインパクトを与える可能性もある。とはいえ、OCES(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)などの増加には農地や企業緑地なども重要であるため、生態系サービスは生物多様性保全には欠かせない概念ではあるが、“役に立つ”というヒト目線の発想が北海道をはじめとする日本各地にもたらしている“功”と“罪”について考える。

●環境教育メッセ（展示ブース）

一般公開プログラム（無料）として、環境教育に関する各団体の活動の紹介、環境関連書籍・商品等の展示・販売を行います。各団体と大会参加者・学会員のコミュニケーションの場として、是非お立ち寄りください。

日時：10 月 11 日（土）9:00～18:00／10 月 12 日（日）9:00～16:15

会場：教室棟 1 階ホール、へき地教育研究センター

出展者一覧（50 音順）：合計 9 団体

- ・北海道、公益財団法人北海道環境財団
- ・地方独立行政法人北海道立総合研究機構
- ・公益社団法人日本環境教育フォーラム
- ・一般社団法人ミュージアム ESD コミュニティ
- ・一般社団法人ちせ
- ・株式会社地域環境計画 北海道支社（下記 4 出展）

Nature Clips / 自然の楽しみ方を広げるツール販売展示

いきものログ / 環境省のアプリを使って、自分だけの生きもののリストを簡単に作成 使い方のサポートあり！

JT の森積丹 / 北海道積丹町で未来を育む！ー生物多様性から学ぶ総合的な学習の時間&環境学習素材の販売ー

道内保全事例/ 企業が保全する北海道の生物多様性 紹介展示

11. 発表プログラム

●口頭発表（オンライン）

※登壇者（筆頭者）として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

10月9日（木）：9:00～11:30

会場	9:00～	9:15～	9:30～
オンライン	[36O01] 酒井佑輔 ブラジルにおける環境教育とパウロ・フレイレ～1992年の地球サミットを中心に～	[36O02] 岡山咲子 環境課題解決人材の育成に向けた全学副専攻プログラムにおける可能性と課題	[36O03] 深川幹 身近な環境問題をめぐる社会的ジレンマを題材とした環境教育プログラムの実践

会場	9:45～	10:00～	10:15～
オンライン	[36O04] 遠藤晃 ユネスコ BR におけるカモシカ ESD プログラムの実践研究 -カモシカすごろくによる探究への誘い-	[36O05] 鳥屋尾健 ビジターセンターでの地域の学校との連携の実際～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターの事例から～	[36O06] 渡辺修 動植物調査の実習にもとづく地域の自然環境の課題の学習－釧路湿原自然再生を題材とした高校生向けプログラムの開発と実践－

会場	10:30～	10:45～	11:00～
オンライン	[36O07] 金澤裕司 別海町西別湿原ヤチカンバ群落の教材化の可能性とその課題	[36O08] 田中絢音 楽器演奏による CO2 排出とその削減方法に関する学びの場の提供活動－大阪万博と U 商業施設における実践事例－	[36O09] 森田ケイコ 持続可能な食を考える体験型食育授業の実践報告 ー大阪・関西万博およびK小における取り組みからー

会場	11:15～
オンライン	[36O10] 清水万由子 大学生による公害経験継承の試みの成果と課題

10月9日（木）：13:00～16:00

会場	13:00～	13:15～	13:30～
オンライン	[36O13] 荒井雄大 ツキノワグマとヒトのより良い関係を考えるシリアスボードゲームの開発と保全教育プログラムのデザイン	[36O14] 松本朱実 シリアスボードゲームを取り入れた保全教育プログラムにおけるツキノワグマに関わる参加者の学びの評価	[36O15] 川尻剛士 核開発地域の教育と人間形成に関する研究：その到達点と課題

会場	13:45～	14:00～	14:15～
オンライン	[36O16] 後藤忍 原子力災害時の安定ヨウ素剤の服用に関する教材等の調査と福島第一原発事故時の教訓に関する教材の作成	[36O17] 小柳知代 植物種ごとに異なる世代間での知識継承の実態：地域景観の差異に着目して	[36O18] 降旗信一 環境教育の場としての「障がい者グループホーム」の可能性～取り残された人はどうすれば環境教育に参加できるのか～

会場	14:30～	14:45～	15:00～
オンライン	[36O19] 斉藤千映美 生命理解に関わる体験・経験を考えるー教員養成課程の学生を対象とする予備調査からー	[36O20] 工藤充 ESD の構造的制約と省察的な学習活動を架橋するための鍵概念としての「スペース」の検討	[36O21] 中澤朋代 小中学校の環境教育を支援する地域官民連携システム

会場	15:15～	15:30～	15:45～
オンライン	[36O22] 河村幸子 奄美大島における環境教育の課題	[36O23] 石山雄貴 高校生の地域学習を支える地域的基盤の形成に関する研究	[36O24] 野口扶美子 ツバルの気候移民の移動と非移動：エンパワメントと伝統知の観点からの再考

●口頭発表（対面）

※登壇者（筆頭者）として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

10月11日（土）：9:15～10:10

会場	テーマ	9:15～	9:30～	9:45～	10:00～
A 会場 201 教室	自然 保育	[36A01] 田中住幸 森のようちえんにおける安全管理の現状と展望	[36A02] 中本貴規 幼児期の自然体験における参画型保育実践の可能性について～討議民主主義の視点から～	[36A03] 柊原華子 渚の自然環境をいかした幼児期の自然体験活動の取り組みー島根県の潟湖での保育実践を事例にー	総合 討論
B 会場 202 教室	生物 多様性	[36B01] 幸田真梨子 自然共生サイト認定申請に対する関係者の意識ー教育機関敷地の事例からー	[36B02] 畑田彩 生物多様性を客観的に扱うためにはー授業での課題と解決の試みー	[36B03] 加藤美由紀 しぜんと生物多様性の価値についての再整理	総合 討論
C 会場 301 教室	動植物	[36C01] 大原尚之 生きものの系 YouTuber の活動に関する現状報告ー生フェス 2025 を通してー	[36C02] 二井菜月 身近な動物に対する抵抗感の要素と関わり方の許容程度・意欲	[36C03] 飯沼慶一 「虫嫌い」の傾向とその原因の分析ー大学生への質問紙調査よりー	総合 討論
D 会場 302 教室	地域 づくり ・ まち づくり ①	[36D01] 藤井徳子 「子どもの森づくり」を起点とした地域共創プロセスとその理論的考察ー利賀子どもの森づくりデザインキャンプを事例にー	[36D02] 芳賀普隆 離島の環境問題対応と地域活性化に関する地域の連携・協働と学生の教育実践ー佐世保市・高島を事例としてー	[36D03] 渡部裕司 中学校における「地域をつくる主権者を育てる」実践にかかわる教師の困難さ	総合 討論
E 会場 304 教室	人材 育成①	[36E01] 村井伸二 環境教育における企業研修の可能性に関する研究ーアドベンチャープログラムに着目してー	[36E02] 板倉浩幸 環境教育士の可能性	[36E03] 井村礼恵 幼小接続のための教員研修シートの開発ー環境構成に着目してー	総合 討論

10月11日(土) : 10:15~11:10

会場	テーマ	10:15~	10:30~	10:45~	11:00~
A 会場 201 教室	環境観 ・ 自然観	[36A04] 大塚啓太 18 歳までの自然体験 はその後の自然への 愛着心を育むか？	[36A05] 菅山明美 アジア・オセアニアの 大学生の環境観 ～2025JAL スカラシ ッププログラム実践報 告～	[36A06] 石田浩基 環境学習施設を活用し た保育実習による中学 生の意識変容	総合 討論
B 会場 202 教室	環境 整備	[36B04] 増田直広 鶴見大学ビオトープ (エコ・ビオガーデ ン) 再整備事業の取組 みと意義	[36B05] 落合佳子 保育園における「完成 しない庭づくり」を通 じた子どもの体験と学 び	[36B06] William R. Stevenson III LEARNING to GROW: ワールドカルチャー 理論とスクールガーデ ンの国際的広がり	総合 討論
C 会場 301 教室	共生 教育	[36C04] 高橋正弘 ヒグマとの共生可能 性と環境教育の可能 性について～札幌市 民へのアンケート調 査から～	[36C05] 福井智紀 参加型思考ツールを用 いたヒグマ対策に関す る意思決定・合意形成 のための学校教材開発 の構想	[36C06] 本田裕子 コウノトリの生息域拡 大を背景とした野生復 帰にかかる環境教育の 現状と課題	総合 討論
D 会場 302 教室	地域 づくり ・ まち づくり ②	[36D04] 中口毅博 "中高生主体の社会活 動が地域の持続可能 性に及ぼす効果の分 析—次世代 SDGs ラボ を中心として—"	[36D05] 萩原豪 地域資源を活かした ESD 実践—桑茶を媒介 とした高大産連携とま ちづくり—	[36D06] 元木埋寿 地域コミュニティにお ける役割認識と ESD 展 開の可能性	総合 討論
E 会場 304 教室	人材 育成②	[36E04] 湊秋作 企業人への生物多様 性セミナー(2021 年～ 2025 年)=体験・知識・ ワークショップで=	[36E05] 二ノ宮リムさ ち 環境正義の時代を拓く 高等教育の役割—立教 大学環境学部開設の取 組を中心に	[36E06] 福田 美紀 太平洋島嶼国における 気候変動を要因とする 人の移動の現況—若者 層に着目して—	総合 討論

10月11日(土) : 11:15~12:10

会場	テーマ	11:15~	11:30~	11:45~	12:00~
A 会場 201 教室	評価	[36A07] 小玉敏也 ESD 学習が生徒の定住 指向に与える影響	[36A08] 許容瑜 環境教育志向の児童心 理的ウェルビーイング 尺度の改訂と信頼性・ 妥当性の検討	[36A09] 内藤光里 京都市における脱炭素 ライフスタイル推進事 業の評価と事業者の参 画を促す要因	総合 討論
B 会場 202 教室	ICT	[36B07] 奇二正彦 市民科学×スマホ×自 然共生サイトの可能性 ー 教育・観光・インナ ーブランディングへの 応用	[36B08] 中村和彦 各小学校の状況に応じ た森林学習单元「森か らみえる」実践による 森林認識への影響の差 異	[36B09] 岩崎慎平 プログラミング機器を 活用した幼児期環境教 育プログラムの開発	総合討 論
C 会場 301 教室	海洋 教育	[36C07] 山本康介 日本の里海～三重県鳥 羽市における令和の里 海づくり事業実践と海 洋教育～	[36C08] 小久保慶一 砂浜海岸の減少と保全 を考える領域横断的学 習	[36C09] 山田貴浩 鳴き砂の調査活動を通 じた地域連携による持 続的な環境教育の取り 組み	総合 討論
D 会場 302 教室	教材 研究①	[36D07] 森淳子 実務経験から作成した 中高向け環境教育資料 の公開	[36D08] 大島順子 世界自然遺産やんばる の教材化における学習 資源の分析	[36D09] 宗田勝也 国連子ども環境ポスタ ーを用いた教育実践の 再検討ーミクロな平和 教育の観点からー	総合 討論

10月12日（日）：9:00～9:55

会場	テーマ	9:00～	9:15～	9:30～	9:45～
A 会場 201 教室	環境教育原論	[36A10] 佐藤秀樹 「余白」をデザインする環境教育－スロー・ラーニングの視点からみる実践と理論の接点－	[36A11] 佐々木啓 環境教育に対する本学会での下位カテゴリ－および日本における関心についての一考察	[36A12] 原子栄一郎 降旗信一前学会長の呼びかけに、みんなで応えよう！「環境教育の存在意義という大きな問いの前にたって」	総合 討論
B 会場 202 教室	教材研究②	[36B10] 津田美子 地域学習素材を活用した「魚のたんじょう」と「流れる水のはたらき」を関連づけた学習	[36B11] 河野晋也 教科の学習における ESD：見方・考え方に着目して	[36B12] 内山大空 Escape Room（脱出ゲーム）の観点を導入した気候変動に関する学習教材の構想	総合 討論
C 会場 301 教室	環境教育関連施設	[36C10] 林美帆 公害資料館ネットワーク 12 年の到達点と課題	[36C11] 原賀いずみ 戦後の上野動物園に誕生した子ども動物園とサマースクールに対する一考察	総合討論	
G 会場 305 教室	奨励賞審査（詳細は p.30）				

10月12日（日）：10:00～10:55

会場	テーマ	10:00～	10:15～	10:30～	10:45～
A 会場 201 教室	協働学 習・連 携教育 ①	[36A13] 森朋子 コンフリクトに対処 する環境教育プログ ラムの考察	[36A14]小堀洋美 自然再興と自然共生 社会の実現に向けた 市民科学：その多面的 アプローチと環境教 育の役割	総合討論	
B 会場 202 教室	農業	[36B13]吉村親 小学校の農業体験学 習における現状と課 題－ホールスケー ル・アプローチによ る分析に着目して－	[36B14] 宇都宮俊星 農業を取り巻く社会 的課題を基盤とした 探究学習の取り組み －教科横断を目指し た展開と課題－	総合討論	
C 会場 301 教室	ESD/ SDGs ①	[36C12] 渋谷晃太郎 岩手県内の高校にお ける SDGs 脱炭未来 ワークショップの実 施	[36C13] 藤岡達也 SDGsの観点から捉え た日本海側の災害に 関する防災・減災・復 興	[36C14] 原 理史 "GIS を活用した地理総合 授業における ESD 実践 －「ミステリーワークショ ップ」を組み込んだ普通科 高校での授業研究－"	総合 討論
F 会場 図書館 グルー プ学習 室 1	英語報告部会（詳細は p.30）				
G 会場 305 教室	奨励賞審査（詳細は p.30）				

10月12日（日）：11:00～11:55

会場	テーマ	11:00～	11:15～	11:30～	11:45～
A 会場 201 教室	協働学 習・連 携教育 ②	[36A15] 田開寛太郎 湿地教育における自治 体と学校・大学の連携 可能性の検討ーラムサ ール条約登録湿地を事 例にー	[36A16] 飯田貴也 産学民連携の学び合い による次世代環境人材 の育成ー学生のボラン ティア活動を“ガクチ カ”につなげるー	[36A17] 浜 泰一 大学フィールドワーク 授業における大学間連 携ーエコツアーの計 画・実践とその評価	総合 討論
B 会場 202 教室	環境教 育関連 制度	[36B15] 福田光郷 バイオマス割当プラス チックに関する認知と 適切な情報表示方法の 検討	[36B16] 元鍾彬 韓国環境教育の現状と 課題	総合討論	
C 会場 301 教室	ESD/ SDGs ②	[36C15] 樋口拓 地域資源体験が育む興 味喚起と環境保全行動 意図：淡路島の ESD 実 践から総合的な学習の 時間への展開を探る	[36C16] 鈴木隆弘 ESD と探究学習 ー高 等学校社会系教科の分 析を中心としてー	[36C17] 小林 慶子 座学型講座は「里山暮 らし」の価値を認知さ せられるのか	総合 討論
F 会場 図書館 グルー プ学習 室 1	英語報告部会（詳細は p.30）				
G 会場 305 教室	奨励賞審査（詳細は p.30）				

●口頭発表（英語報告部会）

※登壇者（筆頭者）として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

10月12日（日）：10:00～10:45

会場	10:00～（オンライン）	10:15～（オンライン）	10:30～（対面）
F会場 図書館 グループ 学習 室1	[36F01]張 格根多仁 NGO-School Partnerships for Education for Sustainable Development: Comparative Case Studies from China and Japan Sub-cases of the AEI Project in Inner Mongolia and the ASAZA Project in Ibaraki	[36F02] 近藤順子 Theoretical Reexamination of “Vernacular” for Transforming Pedagogies in the Anthropocene	[36F03] 栗原友佳 Analysis of Current situation of Agricultural Experimental Learning in ordinary Education in Japan - Focusing on the definition of Agriculture-

●口頭発表（奨励賞審査）

10月12日（日）：9:00～10:50 ※発表時間を修正しました（発表13分＋質疑2分）。

会場	9:00～	9:05～	9:20～	9:35～
G会場 305 教室	挨拶	[36G01] 山本豪 アグロエコロジー実践と しての学校給食の意義と 可能性-兵庫県丹波篠山 市を事例に-	[36G02] 得居千照 「子どものための環境哲 学」の理論と実践ー環境 教育としての哲学ウォー クの実践分析を通してー	[3GF03] 大森和樹 デューイの教育哲学から 考える博物館としての動 物園・水族館

会場	9:50～	10:05～	10:20～
G会場 305 教室	[36G04] 石井康平 市民言説の影響を可視化す る環境政策過程デジタルア ーカイブの構築：市民の理 解および効力感の涵養に向 けて	[36G05] 内田大資 協働的探究学習による「社会 と繋がる学びの構築」～環境 問題の探究を通じた自律型 学習者の育成～	[36G06] 萩原達也 「黒い水事件」から公害のな いまちづくりを学んだ子ど もたち

会場	10:35～
G会場 305 教室	[36G07] 菊岡永里子 障がい児・不登校児童のため の環境教育プログラムの開 発ー包括的な生涯学習とエ イブリズムへの考慮を通し てー

●ポスター発表

10月11日(土) 9:00～13:00・10月12日(日) 9:00～13:00(コアタイム 12:00～13:00)

※登壇者(筆頭者)として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

<ポスター会場:教室棟1階ホール、へき地教育研究センター>

【研究発表】

- P 研 01 寺田千里 同行者属性による学習効果の違い:動物園での Web アプリを活用した気候変動教育の試み
- P 研 02 苟美慧 中国深圳市におけるコミュニティガーデンの自然体験活動に対する住民の認識・関心
- P 研 03 福田愛紗 日本の基礎自治体による生物多様性施策としての環境教育の課題と展望
- P 研 04 ZHANG MOAYUAN モリブデン鉱山におけるリサイクル廃棄物
- P 研 05 史聖寿 環境研究 × 学生の本音:授業におけるグループワークの壁を読み解く
- P 研 06 崔曉瑩 中国企業における ESG 戦略 - 財務パフォーマンスの面からの解析
- P 研 07 阪本梨々果 学習経験の違いで“気づき”は変わる? 大学生の多様性に着目して
- P 研 08 折居巧朗 自然体験活動プログラムが参加者の自然観に及ぼす影響ー高校生を対象としたキャンプ実習を事例としてー
- P 研 09 韓煜明 都市近郊湿地における利用者の認識からみる文化的生態系サービスの空間的特性
- P 研 10 池野正基 都道府県行政の Web サイトにおける生物多様性に関する情報発信の現状
- P 研 11 長島優斗 放置竹林の利活用に関する NPO 法人・企業等の活動及び団体間の連携の状況
- P 研 12 鶴田俊介 遊覧船における海鳥への餌付けの方法に関する意識
- P 研 13 伊東千聖 大学生の身近な屋外空間における自然に対する認知の傾向
- P 研 14 小宮山輝 屠体給餌を活用した展示が来園者の意識に与える影響ー飯田市立動物園を事例に
- P 研 15 石川成亜 公民科教育における世界遺産教育の教材化の検討ー富士山の「顕著な普遍的価値」をめぐってー

【実践報告】

- P 実 01 平尚恵 SDGs 授業における「性の多様性」の伝え方の工夫ー生物多様性を切り口とした LGBTQ 当事者の実践からー
- P 実 02 丸本倍美 野生動物の骨格標本から学ぶ SDGs
- P 実 03 津村風帆 動物福祉を伝えるための教育プログラム:京都市動物園「テンジクネズミのすきを MIKKE」の実践評価
- P 実 04 成田美恵子 日本茜を題材とした地域課題の解決に向けた探究学習の実践
- P 実 05 佐藤凱 3D プリンタを活用した環境教育事例ーさわる・見る・持ち帰れるレプリカ作製ー
- P 実 06 松木生 学生主導の自然観察会における学びー都留文科大学「うら山観察会」での実践ー
- P 実 07 高橋良子 都市部の子どもに向けた自然環境への興味関心の向上を目的としたプログラムの開発

- P 実 08 熊谷豊 認定「体験の機会のある場」の環境教育・ESD 活動の調査報告
- P 実 09 竹本裕之 幼稚園におけるオタマジャクシを森から預かる活動の実践：保育環境と活動の関わりに着目して
- P 実 10 佐方 初奈 グローバルな気候変動とローカルな地域医療の深い関係－高校生と考える持続可能な医療
- P 実 11 廖慧怡 Environmental Education Practices in China's National Parks: A Design Exploration of the Huangpi Wetland Nature Trail in the Qianjiangyuan-Baishanzu National Park
- P 実 12 菅原南美 木と他の動植物との繋がりについての「気づき」を促すための木育教材開発
- P 実 13 奥村昌美 亀岡の自然豊かな河川環境を未来につなげる
- P 実 14 堀川咲希子 富士山周辺の自然・文化資源を活かした地域連携実践

●自主課題研究

※代表者として登録された1名のみ氏名を掲載しています。

10月12日（日）：14:45～16:15（対面）

自主課題研究①（201 教室）

質的研究法を学ぶ会 12～質的研究法を自らの研究・実践に活かす～（高橋宏之）

自主課題研究②（202 教室）

ヒッケル『資本主義の次に来る世界』を読む：社会変革のために環境教育はなにができるのか（大倉茂）

自主課題研究③（301 教室）

環境教育士研究会（板倉浩幸）

自主課題研究④（304 教室）

木こりのドキュメンタリー映画「Forest Trail」環境保全型・環境共存型林業の可能性を見る（菅山明美）

12. 自然災害等に伴う年次大会の中止基準・対応等について

日本環境教育学会 第 36 回年次大会（北海道）
大会実行委員長 能條 歩

日本環境教育学会 第 36 回年次大会（北海道）における、気象警報等の発令および解除における本会の対応を下記の通りとします。なお、皆様が会場に移動される際に起こるあらゆる事柄につきましては、学会および実行委委員会としては責任を負いかねますこと、あらかじめご了承くださいようお願い申し上げます。皆様、ご無理はせず、安全性に問題がある場合は移動を再度ご検討いただくようお願いいたします。

気象庁二次細分区域における釧路南西部で、大会期間中に気象警報・津波警報・噴火警報等が発令された場合、大会開催は以下の通りとなりますので、ご注意ください。

なお、以下の基本方針にご留意ください。

- ・釧路地方以外の災害に関しては原則として以下の中止基準等は適用しない
- ・自治体・大学等による避難指示等があれば、以下の中止基準・対応にかかわらずそれに従う
- ・（陸上輸送機関・航空機等の）交通障害および気象状況による道路閉鎖などには対応しない
- ・釧路に集合できた実行委員だけによる対応になる可能性があるため、下記の基本方針も変更になる可能性がある（大会 HP を随時参照）
- ・当初からオンライン併用になっていないセッションをオンライン併用に変更することはしない
- ・前日から警報等が予測される場合、前日の 17 時までには大会 HP と参加者への一斉メールで対応を連絡するが、17 時以降に事案が発生した場合は以下の中止基準・変更要領に沿って運営する
- ・事前に予定されていない zoom アカウントや wi-fi 環境の提供はしない
- ・エクスカージョンは、主催者があらかじめ中止基準・対応を決めておき、参加者と連絡調整する

【参考】気象庁

気象警報・注意報や天気予報の発表区域

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/saibun/>

警報・注意報

釧路地方

https://www.jma.go.jp/bosai/warning/#area_type=offices&area_code=014100

1) 上記の地域に警報が発令された場合の対応

※学会ウェブサイトの大会ページを随時更新予定

<https://www.jsfee.jp/meeting/annual-conference/>

■大会初日 10 月 9 日（木）

予定通りオンラインのプログラムを実施

■大会 2 日目 10 月 10 日（金）

09 時までに解除 → 予定通り開催

13 時までに解除 → 若手会員の集い以降は実施

※環境教育メッセ事前搬入は警報解除後とする

13 時までに解除されない → 当日の全てのプログラムを中止、環境教育メッセ事前搬入中止

■大会 3 日目 10 月 11 日（土）

06 時までに解除 → 予定通り開催

09 時までに解除 → 口頭発表は中止、ポスター発表および午後以降のプログラムを実施

13 時までに解除 → 16 時から基調講演と公開シンポジウムを時間後ろ倒しで実施、懇親会は中止

13 時までに解除されない → 当日の全てのプログラムを中止

※環境教育メッセの搬入は警報解除後とし、搬入後は随時開始

■大会 4 日目 10 月 12 日（日）

06 時までに解除 → 予定通り開催

09 時までに解除 → 午後のプログラムを実施

09 時までに解除されない → 全てのプログラムを中止

2) 上記により中止された場合

・大会が中止された場合でも、口頭発表およびポスター発表は中止として扱わず、発表が行われたと見なします。

・交通機関の不通や欠航などで発表ができなかった場合も、発表中止として扱わず、発表が行われたと見なします。このため、基本的に発表時間帯の変更はせず、連絡なしに発表時間にいない場合は欠席とみなします（同じセッション内であれば発表順の入れ替えが可能な場合がありますので、いずれにしても hokkaido2025.jsfee@gmail.com へご一報ください）。

・大会参加費および懇親会参加費の払い戻しは行いません。

・環境教育メッセの出展は全日程取り止めた場合のみ、出展料を返金します。

以上

問合せ先

一般社団法人日本環境教育学会第 36 回年次大会（北海道）実行委員会事務局

E-mail hokkaido2025.jsfee@gmail.com

※年次大会に関するお問合せ・ご連絡は、こちらのメールアドレスへお願いいたします。

一般社団法人日本環境教育学会第 36 回年次大会（北海道）ウェブサイト

<https://www.jsfee.jp/meeting/annual-conference/>

一般社団法人日本環境教育学会事務局

株式会社インフォテック内

〒206-0033 東京都多摩市落合 2-6-1

電話 042-311-3355 ファクス 042-311-3356 E-mail office@jsfee.jp